
資料編

資料-1. 第2次環境基本計画策定の経過と環境審議会からの意見

(1) 第2次環境基本計画策定の経過

- 1) 第1回環境審議会 (H23. 5. 20)
 - ・第1次環境基本計画の概略説明
 - ・総合計画策定のためのアンケート結果（環境部分）の報告
 - ・第2次計画策定のスケジュールと基本的な考え方
 - ・地球温暖化対策実行計画（区域施策編）について
- 2) 庁内評価作業 (H23. 6～7)
 - ・第1次環境基本計画の実施状況に関する検証
- 3) 第2回環境審議会 (H23. 8. 8)
 - ・庁内評価結果の説明
 - ・町民アンケート内容について
- 4) アンケート検討会 (H23. 8. 22)
 - ・各質問項目について文言や質問形式等の検討
- 5) アンケート調査 (H23. 9. 30 郵送、10. 17 回収)
 - ・18歳以上の町民1,500名、小学5年生、中学2年生
- 6) 第3回環境審議会 (H23. 11. 9)
 - ・アンケート結果の報告
 - ・第2次環境基本計画の骨子
- 7) 事業者ヒアリング (H23. 11) 4社聞き取り調査
 - ・自然環境やエネルギー等に関する取組状況について
- 8) 勉強会① (H23. 11. 15)
 - ・第1次環境基本計画の10年間における実施状況に関する外部評価の議論
- 9) 勉強会② (H23. 11. 22)
 - ・第1次環境基本計画の10年間における実施状況に関する外部評価の議論
- 10) 勉強会③ (H23. 11. 30)
 - ・第1次環境基本計画の10年間における実施状況に関する外部評価の議論
- 11) 勉強会④ (H23. 12. 9)
 - ・第1次環境基本計画の10年間における実施状況に関する外部評価の議論
- 12) 勉強会⑤ (H23. 12. 13)
 - ・第1次環境基本計画の10年間における実施状況に関する外部評価の議論
- 13) 第4回環境審議会 (H23. 12. 26)
 - ・第2次環境基本計画について
- 14) 説明会（まちづくり町民講座）(H24. 1. 23)
 - ・アンケート結果報告、第2次環境基本計画の説明会の開催
- 15) 縦覧・意見募集（パブリックコメント）(H24. 2. 7～21)
 - ・出された意見7件（1名）、意見の公表は2. 23に実施

（２）環境審議会において議論された主な意見

第１次環境基本計画の評価が適切に行われず、環境審議会の開催も停滞していたことは大きな課題です。

環境基本計画の進捗状況としては、進んでいないものも少なくありませんが、取組全体としては概ね評価できると思われ、10年前に比べ河川等は綺麗になっていると感じられます。

環境に対する取り組みは持続性が重要であり、行政としてこれまでのようなことがないように取り組んでください。住民の主体的な行動による評価や、積極的な活動も必要です。

第２次環境基本計画では、努力目標的なものはできるだけ減らし、計画期間内において実現可能性のあるものとするべきです。

そのため、ニセコ町で完結できない問題等は本来重要なものでも意図的に触れていないものもあります。それらは、原子力発電所の事故・放射能の問題、酸性雨の問題等です。

自然と共生し安全安心で健康な暮らしを続けていくために、第１次計画の理念を引き継ぎ、今後も水環境を中心テーマにして環境保全を進めると共に、良好な環境を次世代へ伝えていくことも大切です。

そのためには、住民も主体性をもって継続的な活動を進めることが重要であり、水循環がもたらす自然界と人間社会との関係を体験的に楽しく学べるような機会、実践できる場の設置が望まれます。

資料-2. 第1次環境基本計画の検証結果と第2次環境基本計画への反映

1：水循環を保全する手だての10年間の目標と実績に関する検証結果

(1) 水源地がある流域の森林を保全し、里山の利活用を推進する

1) 天然林の不伐地域を明確にし、効果的に保全する【森を守る】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
1	①天然林の実態を把握する	計画				1-5
	・天然林など森林の実態把握調査の実施。特に、水源地周辺の林層調査	状況	・天然林は森林面積の88%を占めるが、実態調査は未実施	未	・調査が必要な理由を出し合う	1-5-1
	・「森林整備計画」に基づく水源保全機能重視地域の保全策検討		・平成24年度からの「森林整備計画」を23年度で策定中	済	どのような調査をどうやって行うか整理が必要	1-5-1
2	★②所有者との間で、天然林の保全協定を結ぶ	計画				1-5
	・水源地周辺を中心に不伐を原則とする対象地域を明確にし、所有者との間で可能な範囲で保全協定を締結する	状況	・水道水源保護条例の施行 ・9月から範囲場所を特定し地権者等への周知を図る	済		
	・所有者に関する情報の集約			済		
	・「環境マスター」によるチェックシステムの構築		進捗なし	未	・関心ある人が集まって学習会する中から、テーマのチェック力を磨く	1-5-1
3	③水源地周辺不伐の森林保全条例を制定する	計画				1-5
	・水源地周辺不伐の森林保全条例の制定を検討する	状況	・水道水源保護条例の施行 ・9月から範囲場所を特定し地権者等への通知などで周知を図る	済		
	・水源地への植林		進捗なし	未	植林より保全が必要かどうか、現状の把握によって方針を定める	1-5-2
4	④大規模皆伐を避ける	計画				1-5
	・町有林の大規模皆伐を避け、群状または帯状皆伐、あるいは傘伐や択伐などを採用し、落枝・落葉の流出や表土の流出を防ぐ	状況	・樹齢が35年未満が多いので、当面は伐採より育林が中心の施業となる	継続		1-5-3

2) 森林の管理、育成を進める【森を育てる】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
5	①複層林の植林を促進する	計画				1-5
	・小規模伐採の跡地への複層林の植林を進める	状況	・H24からの「森林整備計画」で検討の可能性	継続		1-5-3
	・「森林整備計画」に基づく育林		・樹齢が35年未満が多いので、当面は伐採より育林が中心の施業となる	継続		1-5-3
6	②育林産業を振興する	計画				1-5
	・新規就業促進の仕組みづくり	状況	進捗なし	未	実態から判断して困難なので、削除	
7	★③間伐材や林産物のリサイクルを進める	計画				1-5
	・間伐材利用方法の検討	状況	・堆肥センターで使用するパークとして現在活用 ・ペレット等新規利用の検討が必要	未	バイオマス資源としての利用拡大を、今後に向けた可能性として担保	1-5-5
	・新規事業化の支援		進捗なし		背伸びしないで検討していく	
8	・堆肥センターの早期の効率的稼働	計画		済		
		状況	設備の更新について検討中			

3) 里山の育成と管理を進める【身の回りの緑を大切にする】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環 境基本計 画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
9	①里山の実態を把握し、その役割について認識を深める	計画				1-5
	・里山の場所の特定に関連する認定制度づくり	状況	進捗なし	未	「里山復元」ではなく、「里山創成」の観点から、ニセコらしい里山のありかたについて定める → 下記の同趣旨の項目も同じディスカッションを通して、身近な自然に関する町民の認識を醸成していく。	1-5-4
	・観察会の仕組みづくりの支援		進捗なし	未		1-5-4
	・共同利用のルールづくりへの支援(不在も含めた地主との調整など)		進捗なし	未		1-5-4
	・町民主体で調べた里山の野生生物の生息記録をデータベースに整備し、保全策を検討する		進捗なし	未		1-5-4
10	②「百年の森構想」によって、里山の造林事業などを推進する	計画				1-5
	・「百年の森」植林事業の準備など、町民参加の森づくりの支援	状況	森と緑の会による植林育林活動の継続実施	継続		1-5-3
	・「森と緑の会」などの住民組織やNPO、地域コミュニティによる植樹、育林活動への支援					1-5-3
11	③里山復元のモデル事業を町民参加で推進する	計画				1-5
	・モデル地区における里山復元事業の実施(里山公園)	状況	進捗なし	未		1-5-4
12	④里山の河畔林を地形や生態系ぐるみで保全する	計画				1-5
	・保全すべき河畔林を選出し、保全手法を検討する	状況	イトウの人工繁殖環境として有島地区カシュンベツ川の環境調査を実施中(NGO)			1-2-4
	・保全すべき自生植物群落(カタクリ、エゾノリュウキンカなど)の保全策の検討		進捗なし	未	保全地区、モデル地区などの検討	1-5-7
13	★⑤里山の利活用や適正な管理運営の仕組みをつくる	計画				1-5
	・町有林の利用に向けた管理運営体制を再整備する	状況	進捗なし	未		1-5-4
	・「環境マスター制度」など町民参加の仕組みづくり		進捗なし			
	・在来種を学ぶシステム作り		・外来種の観察と駆除可能性調査、およびNO MORE 運動	未		1-2-5
14	(行政(役場)の行動項目なし)	計画				
		状況				
15	⑥里山と親しむライフスタイルを創造する	計画				1-5
	・利用可能な里山のPRを図る	状況	・有島地区宮山の桜植林講演の今後の活用	継続		1-5-4

(2) 河川流域の農業用水の循環利用を高め、河川や地下水への汚染負荷を低減する

【水循環に調和した生産活動を進める】

- 1) 大量の農薬や窒素肥料に依存する農業から有機農業への転換を進め、水系への環境負荷を軽減する【クリーン農業を進める】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて 行政(役場)の行動項目と進捗状況	第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環 境基本計 画に継承
16	★①有機農業を目指し、農薬や化学肥料の使用を低減するクリーン農業を推進する ・有機農業の技術支援と人材の育成 ・改正JAS法による有機農産物制度や道のYESクリーン制度などの認証制度適用の検討、及び、ニセコ町独自の認定システムの構築 ・輪作体系の構築に向けた土地利用政策による支援 ・有機農産物の情報と販売の拠点の整備等、流通拡大のシステム構築支援 ・有機農産物の生産、流通情報の提供	計画 状況 ・有機農業の普及啓蒙の継続 ・民間の取組事例に対する支援方法の検討 ・環境にやさしい農業で作られた農産物普及啓蒙支援を行う。(有機農産物・特別栽培農産物・エコファーマー農産物・北海道認証Yes!Clean農産物) ・H22年イエスクリーン団体に認定されたビュープラザ直売会クリーン農業研究会の8種目の野菜の割合を徐々に増やすことから始める ・利用集積事業の推進、緑肥奨励補助制度の創設 ・ビュープラザYes!Clean農産物販売支援(コーナー設置) ・民間の取組事例に対する支援方法の検討	継続 継続 継続 継続 未	減農薬の考え方に整理が必要。現状の農薬使用量等を消費者に理解してもらう取組と、どこまでの減農薬に取り組むかを検討するべき。 ビュープラザ直売会の品質チェックシステムが必要 ニセコルールについて提示	2-1 2-1-1 2-1-2 2-1-2 2-1-2 2-1-3 2-1-2
17	②地下水の汚染防止(特に多肥集約農業による窒素肥料が地下水を汚染する危険性を低減する) ・窒素肥料の適正使用に関する支援と、地下水の定期的な実態把握	計画 状況 ・減農薬・減科学肥料栽培の促進	継続		1-1 2-1-2
18	③休耕田あるいは耕作放棄地を地表水系の一部として有効利用する ・環境保全用途としての活用方法の研究 ・休閑地のクラインガルテン化促進支援 ・休閑地のビオトープ化支援	計画 状況 ・農地流動化支援事業継続 ・耕作放棄地調査により実態の把握 ・農地利用集積事業の推進 ・利用の促進と、長中短期及び移住とセットになったソフト資源として進捗なし	未 未 未	継続 実態として、耕作放棄地でクラインガルテンができるか疑問 同上	2-1 2-1-6 2-1-6 2-1-6
19	④農業廃棄物の不法投棄を防止する ・不法投棄発見後の速やかな指導 ・町民講座、町民懇談会等で啓発活動 ・廃プラ処理に対する支援 ・農業廃プラの処理ルート(リサイクル)の開発	計画 状況 随時 随時 実施定着 継続した啓発	継続 継続 継続 継続		2-4 2-4-5 2-4-5 2-4-5 2-4-5

2) 家畜尿汚水など畜産廃棄物の河川や地下水への流入を防止する

【家畜廃棄物を管理する】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
20	①家畜の糞尿など汚水の河川や地下水への流入を防止する	計画		済		
	・定期的な点検と助言	状況	・堆肥センターと堆肥盤の整備により、周辺のへ環境汚染はほぼなくなった			
21	★②家畜の糞尿を堆肥化する	計画		済		
	・堆肥センターの早期の効率的稼働	状況	・指定管理者による運営。堆肥購入費補助 ・バイオマスエネルギーの利活用に関する実証実験(H22)後は、検討が進んでいない			
	・堆肥品質の維持管理支援		・製品出荷時の品質検査を励行			
22	③堆肥舎の適正管理を進める	計画		済		
	・定期的な点検と助言	状況	・設備面の更新が必要な時期を迎えている			

(3) 生活空間における健全な水循環を確保する

1) 合併処理浄化槽などの利用を促進し、観光・農村地域の生活排水による公共用水域の水質悪化を防ぐ【生活排水をそのまま流さない】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
23	★①合併処理浄化槽の導入を促進する	計画	20基補助	継続	それぞれの状況に応じた廃水処理方法等の勉強会の開催	1-3
	・助成補助制度の効果的運営による合併処理浄化槽導入の支援	状況	・15基補助(H23)→実績累計で計画人口795人をカバー ・残りは、くみ取りと単独浄化槽利用者計画人口1,370人で、合併処理浄化槽導入を働きかける(H24～)が、既住者の導入対応が鈍い			1-3-1
	・コミュニティプラントなど合併処理浄化槽以外の浄化手法の検討を進める		・地形上コミュニティプラントなど浄化槽以外はコストがかかり無理。			
24	②生活排水に関するライフスタイルの見直しを行う	計画		未	ニセコ特性上、不要 → 削除	1-3
	・中水(上水の再利用)などの利用方法を提案する	状況	進捗なし			

2) 生活排水の汚濁濃度を軽減することにより、下水道処理の負担を低減する
【公共下水道を利用する】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
25	①公共下水道による水洗化率を向上させる	計画				1-3
	・公共下水道導入促進に向けたPR活動の徹底	状況	・水洗便所工事助成による効果	継続		1-3-1
	・処理水の水質維持管理		・BOD除去率で目標は90%以上	継続		1-3-1
26	②下水道処理の浄化負担を軽減する	計画				
	・下水処理水の再利用の促進	状況	・処理場内清掃水として再利用	継続	削除 ※節水の考え方はライフスタイルなどの項目に入れ込む	
27	★③生活排水の再利用や節水を進める	計画				
	・生活排水の再利用の方法を提案する	状況	進捗なし	未	削除	
28	・雨水の浸透施設など、再利用を進めるシステムの検討	計画				
		状況	・ニセコ町の下水道は分流式の汚水で雨水は実施していない。		削除	
29	④道路などの清掃を行う	計画				
	・道路の清掃により、降雨時の河川への負荷の軽減を図る	状況	・点検・清掃は常時行っている。	継続	削除	

3) 水辺と触れあう親水性のライフスタイルをつくる【水に親しむ仕組みをつくる】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
30	①さまざまな親水活動のプログラム開発を行う	計画				1-2
	・親水活動プログラムの普及促進	状況	・特段の指定は行っていないが、有島記念公園が水と親しめる場として整備されているので、有島記念公園整備計画として構想中(H22)	継続		1-2-2
	・尻別川流域情報センターニセコ窓口の設置		進捗なし	未	統一条例連絡協議会で活動で代替	1-2-1
	・かつての馬鈴薯澱粉工場の水車の復元などによる体験型親水拠点の指定、整備		・マイクロ発電水車の設置場所としての再活用を試行中(H22-23)	継続		1-2-2
	・ニセコ大橋下の河川親水活動拠点の整備検討		進捗なし	未	場所の再検討と、住民手作りを基本に	1-2-2

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
31	★②町民の親水活動を促進する	計画				1-2
	・親水活動などの仕組みづくりをおこなう	状況	・社会教育にて川で遊ぶ事業の実施	未	30と31を一つにまとめる	1-2-2
	・親水活動の場の設定と整備		・有島記念公園整備計画として構想中(H23) ・有島地区カシュンベツ川をイトウの人工繁殖の場(NGO)とし、観察などによる参加を検討	継続		1-2-2
	・子どもが遊べる親水ポイント「川のプール」の設置		進捗なし	未		
	・親水活動マイスターの制度の創設(認証システムの提案)		進捗なし	未		1-2-2
32	③灌漑溝や排水路の環境共生化と親水化を検討する	計画				
	・工法の切り替え条件の整備	状況	進捗なし ・他町村では、イトウの魚道整備など新たな整備手法が始まっている	未	新たな状況を推進	1-4-3
	・歴史的資源である有島灌漑溝を活用した親水ポイントの整備		・有島地区の灌漑溝を水環境整備事業活用して修繕(H18～23)したが、H24以降の整備手法が見えていない	未	新たな地域住民の参加による継続	1-4-3
33	④親水活動による水環境の観察結果を環境改善に活用するため、河川利用のルールをつくる	計画				1-4
	・町民や事業者などから提供された水環境の状況情報を、環境整備に活用する仕組みづくり	状況	進捗なし ・カシュンベツ川の水環境調査がNGOで進められている	未	民間の取組を支援	1-4-4
	・フィッシングエリア(釣り体験ゾーン)の設定		進捗なし	未	不要	
	・釣りやアウトドアレジャーなどの河川利用のルールづくりの支援		進捗なし ・尻別川統一条例の改正に伴い、イトウの生息環境保護に向けた釣のルールづくりの必要性	未	継続	1-4-2
	・他自治体や民間団体との連携	進捗なし ・尻別川統一条例の制定に向けた7町村とNGOの連携(H23)	未	継続	1-4-2	
34	⑤親水活動に関する各種NPOや住民団体の活動を促進する	計画				1-4
	・NPOや住民団体の活動への支援や認定	状況	・NPOしりべつりバーネット、オビラメの会の活動協力	継続		1-4-4

(4) 河川、湖沼、地下水などにおける自然生態系に依拠した水循環を取り戻す

1) 河川の水際線の自然地を保全し、生物生態系の維持と、河川水質浄化機能を向上する

【川の水を守る】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
35	⑥総合的学習に親水活動を導入する環境教育プログラムを作成実施する	計画				1-4
	・総合的学習プログラム作成支援	状況	進捗なし ・各学校では、イトウの稚魚飼育などNGOと協力して環境学習に取り組んでいる	継続		1-4-4
	・野外スクールシステムの仕組みづくり		・社会教育にて川で遊ぶ事業の実施	継続		1-4-4
36	①尻別川とその支流の水質維持向上を図る	計画				1-3
	・水質保全監視体制の仕組みづくり	状況	・北海道一級河川環境保全連絡協議会や尻別川環境保全対策協議会との連携	継続	30に含まれる	1-3-1
	・水質悪化河川の実態把握と改善方策の実施		・北海道一級河川環境保全連絡協議会や尻別川環境保全対策協議会との連携	継続		1-3-1
	・凍結道路融雪剤の河川への影響の有無について調査を行う		・北海道一級河川環境保全連絡協議会や尻別川環境保全対策協議会との連携	未	42に一本化	1-3-1
37	★②河畔林、魚付き林の保全・回復を図る	計画				1-2
	・堤防、河畔の自生樹木の伐採抑制と適正樹木の植樹	状況	・現状を維持し、樹木の植樹は実施なし ・カシュンベツ川やルベシベ川の河川改修	未	42に一本化	1-2-3
38	③水際への不法投棄を行わないような町内外への広域的な啓発活動を行う	計画				1-3
	・広域的連携に向けた協議組織の立ち上げと啓発活動の実施	状況	・河川管理者による巡回・監視活動にとどまる	未	65に一本化	1-3-4
	・不法投棄指導体制の仕組みづくり		・河川管理者による巡回・監視活動にとどまる	未	65に一本化	1-3-4
	・釣りの規制エリアの設定		・河川管理者による巡回・監視活動にとどまる	未	65に一本化	1-3-4
39	④水質浄化機能を保全するため、河川流域の自然生態系を保全する	計画				1-3
	・自然河川の実態調査とPR	状況	進捗なし ・カシュンベツ川の生物生息可能性調査(NGO)	未	42に一本化	1-3-1

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
40	⑤流域の生態系に生息する野生生物の実態を把握し、保全策を講ずる	計画				1-2
	・町民が調査した流域の野生生物の記録をデータベースに整備し、保全活動の参考に資する	状況	・環境基本計画策定の際に地元学的手法により調査しているが、その後の追跡調査はなし ・個別の調査により、新たな種の発見などの事例がある(ニセコレイジンソウ、ハゴロモレイジンソウ、エゾレイジンソウ)	継続		1-2-1
	・流域生態系の保全策について検討する		進捗なし	未	42に一本化	1-2-1
41	⑥町内を通ると予想される北海道新幹線のトンネル工事による地下水や河川への影響を最小限にとどめるよう、関係機関に働きかける	計画				1-1
	・トンネル工事に伴う水系への影響あるいは土壌などへの影響に関する検討委員会に、町民の積極的な意見を反映し、地域合意の形成を支援する	状況	・着工が延期されており具体的な動きはなし	未	42に一本化	1-1-1
42	⑦尻別川水系の全般的な保全策を進めるために、流域の他町村と広域的な連携をはかる	計画				1-2
	・尻別川流域の町村間の広域ネットワークの形成をはかり、流域保全広域条例の制定などコミュニティの活動を支援する	状況	・尻別川流域7町村統一条例が一部改正され、生物多様性保護の取組が記された ・今後は、より一層実効性のある生物多様性保護の仕組みづくり(条例など)が必要	継続		1-2-4

3) 野生生物の接近を阻むコンクリートによる三面張りの護岸を見直し、自然に近い改修工法によって、河川流域の生態系を回復する【川を自然に戻す】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
43	★①流域全体を対象とした生態系と護岸工法の実態調査を行い、地域特性に応じた改修のあり方に関する計画を策定する	計画			着工前の計画段階で協議に参加できる取組を	1-2
	・実態調査と計画策定の仕組みづくりと進行管理のコーディネーション	状況	・土木現業所や後志振興局では一部取り組みが始まっているので、ニセコ町としても取り組みを検討する必要がある	未	継続	1-2-6
	・施工法の検討		・イトウがのぼれる新たな魚道の設置事例が出て来たので、検討を具体化することが望まれる	未	継続	1-2-6
44	②落差の大きな砂防ダムを小さな落差工に修復する	計画				1-2
	・実態把握と、再整備の事業構築	状況	・イトウがのぼれる新たな魚道の設置事例が出て来たので、検討を具体化することが望まれる	未	継続	1-2-6
45	③魚道を確保し、全ての河川で回遊魚の遡上を確保する	計画				1-2
	・実態把握と、再整備の事業構築	状況	・イトウがのぼれる新たな魚道の設置事例が出て来たので、検討を具体化することが望まれる	未	継続	1-2-6
46	④河床のコンクリート張りを撤去するなど、コンクリート3面張りによる護岸を取り除いて、自然河川に近い状態に修復する	計画				1-2
	・実態把握と、改修のあり方に関する計画にもとづく再整備の事業構築	状況	・土木現業所や後志振興局では一部取り組みが始まっているので、ニセコ町としても取り組みを検討する必要がある	未	継続	1-2-6
	・モデル地区の設定による、モデル事業の検討		・イトウがのぼれる新たな魚道の設置事例が出て来たので、検討を具体化することが望まれる	未	継続	1-2-4

4) 河川流域の水と緑が織りなす、ニセコらしい空間と景観を保全する土地利用を進める

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
47	★①総合的な土地利用計画を策定する	計画				1-5
	・町民参加の土地利用計画づくりを進める	状況	・準都市計画の拡大と市街地への都市計画の導入の是非について住民議論を進め、ニセコ町としての望ましい土地利用の全体構想を描く必要がある	未	継続 自然公園外でも必要に応じて町独自の保護区域設定を検討	1-5-7
	・土地利用の適性を図るための生態学的手法を導入する	進捗なし		未	上に含める	1-5-7
	・湿地や斜面など、未利用地であった土地の価値に関する調査を行う	進捗なし		未	継続	1-5-7
48	②景観条例を定め、河川流域の景観について基本的な方針を打ち出す	計画				
	・条例制定に向けた検討の場づくり	状況	・景観条例に基づき、事前景観調査や住民説明会を実施することにより、ニセコ町全域でニセコらしい景観の保全を行っている ・条例の実効性は、住民による趣旨の理解に基づく景観変更案件に対する住民参加による解決	済		
49	③景観構成要素ごとの保全と創造に関するガイドラインを作成する	計画				1-2
	・景観評価のシステムの開発	状況	・準都市計画区域内の開発行為等について、建築基準法・景観法・ニセコ町特定用途制限地域における建築物等の制限にかんする条例・ニセコ町景観地区条例により、最低敷地面積や隣地との離れ、色彩等に制限を付すことにより、ニセコらしい景観の保全を行っている	未	継続	1-2-7
50	④保全したい景観を発見するためのイベントを開催する	計画				1-2
	・町民活動への支援	状況	特段の動きは見られない	未	継続	1-2-7
	・イベントの開催		進捗なし	未	継続	1-2-7
	・町民が保全したいと思っている景観の類型化や分析を行う		・子どもWSIにおいて実施	未	継続	1-2-7

2：物質循環型のごみゼロ地域を目指す手だての10年間の目標と実績に関する検証結果

(1) 最適消費と再使用（リユース）にもとづく持続可能なライフスタイルへの転換

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて 行政(役場)の行動項目と進捗状況	第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環 境基本計 画に継承
51	①ものを大切に使うライフスタイルを取り戻す	計画			2-3
	・修理業、修理ボランティアへの支援策の検討	状況	進捗なし	未 啓発として継続	2-3-1
	・生活用品の用途替えアイデアコンクールなどの実施	状況	進捗なし	未 啓発として継続	2-3-1
52	②自分で作れるものは、工夫して作る	計画	講習会実施		2-3
	・DIYのハウツー講習会への支援	状況	進捗なし	未 啓発として継続	2-3-1
53	③暮らしに本当に必要なものだけを適正量だけ買う消費生活を取り戻す	計画			
		状況	進捗なし	未 意味が不明なので削除	
54	④リユースのための仕組みをつくる	計画			
	・リユースセンターの設置と仕組みづくりおよび運営への支援	状況	進捗なし	未 不要→センターは不要だが、リユースの考え方は継続	
55	★⑤省エネルギーを推し進める	計画	低公害車への切替率30%		2-2
	・自然エネルギー導入の支援策の検討	状況	・自然エネルギー研究会の設立とテーマ別の活動開始	継続	2-2-2
	・低公害車の導入		進捗なし(順次進展の模様)	継続	2-3-4
	・低公害車の範囲に関する検討		進捗なし		2-2-2
	・省エネルギーに関する情報ネットワークの整備		・自然エネルギー研究会の設立とテーマ別の活動開始	未	2-2-2
56	⑥農業が資源の循環に貢献してきた役割を理解し、今後は地産地消(地場産物を地場で消費)の地域内循環の環を形成する	計画			2-1
	・地産地消の仕組みづくりとブランド化、およびラベル表示システム	状況	・引き続き検討・実施が求められる ・特に、加工品の地産地消が展開し始めた(コメ粉、ぶどうジュース、蔵人衆、農家レストランなど)	未	安全安心な地場農産物を前提とする地産地消の原則的観点を明確に表現する
	・観光一時滞在者も含めた地産地消のシステムアップ				
	・仕組みづくりに向けた、関係機関(農業、観光、商業、環境)の協議の場づくり		・本プロジェクトでの検討を経て、観光の多く集まる道の駅ニセコビュープラザを会場にニセコ町産農産物をPRする「食べ菜！遊び菜！ニセコ収穫祭」を開催したほか、全国で活躍する事業者を講師に迎え、町内各事業者との交流を図るKIRAキートークを実施	継続	2-1-3
	・土づくりの支援		・継続	継続	2-1-2
	・使用肥料や農薬に関する情報の地域内共有を進める		・JA・普及センターとの連携	未	2-1-5
57	⑦再生品による地場産品を開発する	計画			
	・消費者と事業者を結ぶ仕組みづくりを進め、再生品による商品開発の支援策を講ずる	状況	・(町民生活)具体的な支援策はなし、木材破砕チップや生ごみ汚泥堆肥の例	未	不要(54と統合整理)

(2) 廃棄物分別の細分化による、再生利用（リサイクル）の推進

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環 境基本計 画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
58	★①ごみの分別を徹底する	計画	リサイクル率50%			2-4
	・分別種類を増やす	状況	進捗なし	未	現状で継続	
	・紛らわしい分別は、正しい方法を情報共有		・ここでのリサイクル率算出は不燃・粗大ごみの有価物分、生ごみの自家堆肥分を考慮に入っていない ・堆肥センターの影響は大きい	継続		2-4-1
	・効率的な分別方法のアイデアを共有する		・広報による分別への意識高揚	継続		2-4-1
59	②購入するときは、リサイクル商品などを優先して買う(グリーン購入)	計画				2-4
	・グリーン調達推進	状況	・グリーン購入の定着	済	継続	2-4-2
	・グリーン購入についての情報共有を進める		・定着	済		2-4-2
60	③資源化ルートを開発する	計画				
	・回収と運搬の適正化支援	状況	・具体的な支援策はなし、リサイクル協会を通じたルートの確立	済		
61	(行政(役場)の行動項目なし)	計画				
		状況				

(3) 最小廃棄（リデュース）の段階を経て、ゴミゼロを目指す【ごみを減らす】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
62	★①ごみの排出量を減らす	計画	収集ゴミ量1,151t	継続		4
	・ごみの有料化を推進する	状況	・計画と比べると、実績は収集ゴミ量が多いので、その背景分析と対策検討が必要			2-4-2
63		計画	直接搬入ゴミ量920t	継続		2-4-2
		状況	・直接搬入は事業系ホテル1社を除き実施していない。この1社の2006・2007年度データがないため、2003年度以降は直接搬入量を収集量に加えて(含んで)いる	継続		2-4-2
64	②ごみになるようなものは買わない	計画		済		4
	・グリーン調達の推進	状況	・廃棄物対策検討委員会より			2-4-2
65	③ごみの不法投棄を防ぐ	計画		継続		4
	・不法投棄の調査、回復指導に努め、適正処理の指導を行う	状況	・住民からの通報、環境美化巡視、クリーン作戦による対応			2-4-5
	・悪質な投棄者に対する厳しい法的措置		・特に悪質なものについては警察に通報			2-4-5
	・マニフェストなどによる適正処理の管理支援		・特段の進捗なし			未

（４）生ごみの資源化の推進【生ゴミを土に戻す】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年)の全体概況	実施状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
66	①生ゴミの自家堆肥化を進める	計画				4
	・生ゴミを自家堆肥化できない世帯のために集団回収システムを作る	状況	・コンポスター助成H3～H14 649基 ・電気式処理機助成H11～H15 129台			2-4-3
67	②家庭や事業所における生ゴミの堆肥化と庭先の土づくりへの還元を進める	計画				4
	・公園などの花樹への施肥あるいは土づくりへの還元	状況	進捗なし			2-4-3
68	③冬の庭先コンポスト化を推進する	計画				4
	・堆肥化方法や関連アイデアなどの情報収集と活用法のPRなど	状況	・生ごみ収集ラインに乗せるのが現実的		野生生物対策を表記	2-4-3
69	★④堆肥センターによる堆肥づくりを推し進める	計画	生ごみ堆肥化量913t			4
	・堆肥センターの稼働によるシステム管理	状況	・設備面の更新が必要	計測 継続		2-4-3
	・堆肥品質向上のための情報提供		・製品出荷時の品質検査			2-4-3

(5) 地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を減らす【二酸化炭素の排出を減らす】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて		第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環 境基本計 画に継承
	行政(役場)の行動項目と進捗状況					
70	①必要最少限の資源量を有効に活用する (省資源)	計画	・二酸化炭素の排出削減6%(1991年に比 べ)			2-3
	・3R(リユース、リサイクル、リデュース) の推進	状況	・広報による啓発			2-3-3
	・LCA(ライフサイクルアセスメント:消費者が製品 を使用している時の排出物による環境 への影響だけではなく、製品が製造し廃 棄されるまで、消費者が実際に見ること ができない場所での排出物や資源の消 費が環境へ与える影響を評価する方 法)による評価システムの構築への検討		・評価システムの構築には至らず。 1991年二酸化炭素排出量9487tC	未	継続	2-4-5
71	②必要最少限のエネルギーを有効に活用す る(省エネルギー)	計画	・二酸化炭素の排出削減6%(1991年に比 べ)			2-3
	・エネルギー利用効率の向上		・地中熱などによる検討を継続中、一部で 実施(有島記念館)	継続		2-2-3
	・省エネルギーの手だての推進		・(後退)職員増	継続		2-2-3
	・低公害車の導入促進を支援		・徐々に導入が進んでいる	継続		2-3-5
	・雪冷熱エネルギーの利用促進	状況	・雪山による雪氷熱実験の継続	継続		2-2-1
	・時差出勤や情報通信の活用		進捗なし	未	継続	
72	★③資源循環、エネルギー循環の環を補完 し、地球環境への負荷を低減する	計画	・二酸化炭素の排出削減6%(1991年に比 べ)			2-3
	・総合的な廃棄物処理、再資源化のシス テム化		・ごみ分別と再資源化の仕組みはほぼ確 立	済		
	・自然エネルギーの利用促進支援		・自然エネルギー研究会の設立	済		
	・雪冷熱エネルギーの利用促進支援		・雪山による雪氷熱実験の継続	継続		2-2-1
	・LCA(ライフサイクルアセスメント)によ る評価システムの構築への検討	状況	進捗なし	未	継続	2-4-4
	・町内循環バスの利用促進によるエネ ルギーの有効利用		・エネルギー有効利用面からの検討は未 着手	未	継続	2-3-3
73	④地球温暖化ガスを吸収する森林などを守り 育てる	計画	・二酸化炭素の排出削減6%(1991年に比 べ)			2-3
	・水辺環境の保全と河畔林の創出	状況	・尻別川統一条例改正の理念に基づき、 生物多様性を保護する観点から取組みの 具体化を検討	継続		1-2-1
	・百年の森づくり運動の支援		・森とみどりの会の植林の取組みの継続と 参加、支援	継続		1-5-3
	・里山保全活動の支援		・桜の植樹など関連する住民活動への支 援	継続		1-5-4

3：町民参加による計画の進行管理の10年間の目標と実績に関する検証結果

町民と行政のパートナーシップによる、環境基本計画の進行管理 【町民主体の環境マネジメント】

区分	第1次環境基本計画の目標達成の手だて 行政(役場)の行動項目と進捗状況	第1次環境基本計画期間(2002～2011年) の全体概況	実施 状況	審議会による検証結果	第2次環境基本計画に継承
74	①地域環境をもっと知り将来の人材を育成するため、環境教育・環境学習を推進する	計画			1-2
	・環境教育・学習プログラムの充実化と、環境マスターや親水活動マスターなど人材の育成と活動の場のコーディネート	状況	・社会教育にて川で遊ぶ事業(少年ふるさと教室)の実施	未 継続	1-2-2
	・地元学による環境学習のプログラム化	進捗なし	未	継続	1-2-2
	・環境情報の提供と共有	進捗なし ・「環境白書」の発行による、環境情報の共有	未	継続	4-2
75	★②人材の発掘と育成により、町民主体の計画進行管理と計画実践の仕組みを作る	計画			4-2
	・町民参加による計画進行評価と実践活動の仕組みづくりと運用の支援	状況	・環境白書作成の作業時に町民による作業部会、又は環境審議会による参加	未 継続	4-2
	・計画進行管理状況の公表	・2005年度公表の環境白書2004以来、作業は停滞している	未	継続	4-2
76	③町民と行政のパートナーシップにより、地域環境マネジメントシステムを管理運営する	計画			4-2
	・ニセコ方式事業者用簡易版ISO14001、学校版ISO14001、家庭版ISO14002の認証システムづくり	状況	進捗なし	未 「ニセコルール」としてのEMSに	4-2
	・環境基本計画、各種ISO、率先行動計画、土地利用計画などによる体系的なニセコ町環境マネジメントシステムの構築	進捗なし	未	「ニセコルール」としてのEMSに	4-2
	・町内でISOに準じた審査や指導ができる人材を育成し、活躍できるシステム作りを進める(ISOマイスター)	進捗なし	未	「ニセコルール」としてのEMSに	4-2
	・地域ISOマスターの認定と活動の仕組みづくり	進捗なし	未	「ニセコルール」としてのEMSに	4-2

水環境のまちニセコ

第2次ニセコ町環境基本計画

よい環境を子どもたちに残したい

■発行 ニセコ町（平成24年3月）